

第3学年 学級活動指導案

平成30年11月 8日 5校時

小学校3年2組28名

指導者 T1 学級担任

T2 栄養教諭

1 題材 めざせ、小野菜博士！

活動内容（2） エ 食育の観点をつまえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材設定の理由

（1）教材観

近年、食環境の変化に伴い、様々な健康上の問題が出てきている。その中で、成長期である児童が、好き嫌いせずバランスのとれた食事をとることは、望ましい食生活を形成するとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために重要なことである。

（2）児童観

本学級の児童は、明るく活発で探究心旺盛である。食べることにしても意欲的であり、給食の時間を楽しみに学校生活を送っている。しかし、7月に実施した食生活に関するアンケートの、「給食に嫌いな物がでたらどうしますか」の問いに、全部食べると答えたのは43%で、減らすや少し食べると答えたのは47%、食べないと答えたのは3%、嫌いなものがないと答えたのは7%であった。アンケートの中で苦手な食べ物は何かを問うと、野菜が多いのが実態である。

（3）指導観

児童はこれまでに、赤・黄・緑の三つの食品群について学習している。それぞれの食品の働きについて、知識としては理解しているが、自分の体にとって必要な物だと考えて実践している児童は少ない。食生活に関するアンケートや、苦手な食べ物アンケートの結果をもとに、緑の食品が不足していることに気付かせ、栄養教諭の専門的な話を聞くことで、野菜を好き嫌いせずに食べようとする意欲をもたせたい。

3 題材の目標

野菜の働きを知り、自分の食生活を改善しようとするめあてをもち、実践することができる。

4 題材の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

5 食育の視点

好き嫌いせずに残さず食べようとする。〈心身の健康〉

6 指導内容

- ・事前指導 朝の活動「食生活アンケート」

「お家の人にインタビューしよう」

- ・本 時 学級活動「やさいのことを知って、もっと好きになろう」 1 時間（本時）

- ・事後指導 給食指導

チャレンジカードを記入し、野菜博士認定書をわたす。

7 本時の学習

（１）目標

苦手な野菜を進んで食べるための、めあてをたてることができる。

（２）展開

	学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
5分	1 アンケート結果から本時の学習課題をつかむ。	○クイズを出し，苦手な食べ物アンケートの上位が野菜であることに気付かせる。(T1) ○給食の残食から，野菜が多く残っていることに気付かせる。(T1)	
10分	2 なぜ野菜が苦手か考える。	○Rちゃん，Mちゃんの苦手だった野菜の話をし，子どもの話を引き出す。(T1)	
やさいのことを知って，もっと好きになろう。			
10分	3 野菜について栄養教諭の話聞く。 (1) 野菜の働きを知る。 (2) 自分がどれくらい食べたらいいかを知る。	○野菜が体の調子を整えるために重要な働きをしていることを野菜のパワーカードを示し知らせる。(T2) ○1日にとらなければならない野菜の量を実物で示し知らせる。(T2) ○給食でとれる野菜の量を知らせる。(T2)	
10分	4 苦手な野菜をどうすれば食べることができるか考える。(グループ活動)	○Rちゃん，Mちゃんへのアドバイスを考える。(T1・T2) ○野菜を今まで以上に食べるためにはどうすればいいか考えさせる。 (T1・T2)	

10分	5 学習の感想やこれからのめあてを決める。	○自分に合った方法を選択できるよう支援する。(T1・T2) ○自分で決めためあてを発表する。(T1)	【思考・判断・実践】 苦手な野菜も食べるためのめあてを考えていることができる。(ワークシート・発表)
-----	-----------------------	--	--

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の食生活の改善につながる具体的なめあてを考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	野菜のパワーカードや、実物の野菜などの視覚教材を用いて分かりやすく説明する。